

東京大学大学院  
農学生命科学研究科

# 食の安全・安心に向けた 教育・研究の取り組み

平成5年～平成18年

アグリコクーン  
(産学官民連携型農学生命科学研究インキュベータ機構)  
の活動を中心に





平成5年11月27日～平成17年11月26日

農学部 公開セミナー

(1) 農学部公開セミナー

最新の研究成果の社会への還元の一環として春と秋の年2回公開セミナーを企画し、2005年度までに29回実施した。メインテーマと講演題目は次の通りである。

第5回 「コム・稲・水田」 1993年11月27日(参加者 106名)

(1) コメの輸入自由化問題	農業経済学科 教授	森島 賢
(2) 稲と稲作、米の味	附属農場 教授	松崎 昭夫
(3) 水田の多様なはたらき	農業工学科 助教授	山路 永司

第10回 「食の国際化と安全性 - 狂牛病は? ウイルス病は? 食材は安全か? -」 1996年6月1日(参加者 272名)

(1) 狂牛病と食の安全性	応用動物科学専攻 教授	小野寺 節
(2) 食の安全性の経済学 - 狂牛病問題によせて -	農業・資源経済学専攻 教授	生源寺 眞一
(3) 水産動物の種苗の輸入と防疫	水圏生物科学専攻 教授	若林 久嗣

第12回 「食の国際化と安全性II - 農学が拓く食と健康 -」 1997年6月7日(参加者 237名)

(1) 魚の毒・貝の毒	水圏生物科学専攻 教授	伏谷 伸宏
(2) 腸内細菌と健康	獣医学専攻 助教授	伊藤喜久治
(3) 食品によるアレルギーと免疫学	応用生命化学専攻 教授	上野川 修一

第17回 「食と遺伝子」 1999年11月6日(参加者 237名)

(1) 家畜と遺伝子操作	応用動物科学専攻 教授	東條 英昭
(2) お米の品質・食味と遺伝子のはたらき	生産・環境生物学専攻 助教授	平野 博之
(3) お酒と遺伝子	応用生命工学専攻 教授	北本 勝ひこ

第19回 「食と農における安全性をめぐる」 2000年11月18日(参加者 171名)

(1) 食品汚染病原微生物の コントロール・食中毒防止に向けて	獣医学専攻 教授	熊谷 進
(2) 遺伝子組換え作物研究の現状 - 病害抵抗性組換え作物を例として	生産・環境生物学専攻 教授	日比 忠明
(3) 植物の姿と農薬とホルモン	応用生命化学専攻 教授	山口 五十磨

第23回 「食の危機管理」 2002年11月16日(参加者 194名)

(1) 農産物の安全な保存へのアプローチ	生物・環境工学専攻 教授	大下 誠一
(2) 食に危機をもたらす動物の感染症と対策	獣医学専攻 助教授	遠矢 幸伸
(3) 危機管理におけるリスクコミュニケーションの役割	農業・資源経済学専攻 助教授	中嶋 康博

第26回 「機能性食品と健康」 2004年6月12日(参加者 211名)

(1) 健康を守る新食品「トクホ」を知ろう	応用生命化学専攻 教授	清水 誠
(2) 腸内細菌叢(腸内フローラ)から見た機能性食品	獣医学専攻 助教授	伊藤喜久治
(3) 機能性食品とニュートリゲノミクス	応用生命化学専攻 教授	阿部 啓子

第29回 「どこまで食糧増産は可能か?」 2005年11月26日(参加者 160名)

(1) 「緑の革命」から学ぶもの	農業・資源経済学専攻 教授	岩本 純明
(2) 耕地創生に向けて	生物・環境工学専攻 教授	宮崎 毅
(3) 遺伝子組換え作物の可能性	生産・環境生物学専攻 教授	大杉 立
(4) パネルディスカッション「食糧増産と農学の役割」		

平成 14 年 10 月 24 日  
公開講演会 「BSE と食の安全性」

---

**BSE（牛海綿状脳症）公開講演会  
—BSEと食の安全性—**

開催日時：平成14年10月24日（木）  
場 所：東大農学部1号館8番教室  
参加者：自由参加、事前申込み不要、無料

---

- 13：10－13：15 講師の紹介  
13：15－14：45 **特別講演Ⅰ．「BSEの感染発病機序」**  
講師：ジェラルド・ウェルズ（Gerald A. H. Wells）博士  
前英国中央獣医学研究所（Veterinary Laboratories Agency,  
Central Veterinary Laboratory）  
通訳付き 座長：小野寺 節（東大）  
14：45－15：00 質疑応答  
15：00－15：15 休憩  
15：15－16：00 **特別講演Ⅱ．「BSEと食の安全性」**  
講師：小澤義博博士（国際獣疫事務局（OIE）名誉顧問）  
16：00－16：20 全体討論 座長：吉川 泰弘（東大）
- 

講師略歴

ジェラルド・ウェルズ博士

1964年ロンドン大学獣医学部卒業 ～1975年リバプール大学で病理学を講義  
～2000年英国中央獣医研究所（ウエイブリッジ）にて診断病理学および神経病理学  
主任。 1986年に英国で最初の牛のBSEに関する記述を発表。BSEの病理学的研  
究を続ける。OIEのBSE診断センターの専門家、WHOおよびEUのBSE専門家委員  
会に参画。OIEのMerit賞などを受賞。

小澤義博博士

1954年東大農学部獣医・畜産学科卒業 農水省家畜衛生試験場勤務  
1959年ミンガン州立大学でPh.D.を取得 厚生省国立予防衛生研究所勤務  
1961年国連FAO職員として中近東に勤務後、1974年にFAO本部に転勤  
1980年FAO家畜衛生課長 1988年OIE本部科学最高顧問、BSEなどの重要疾病を担  
当 1992年OIEアジア太平洋地域事務所を開設、初代代表 2002年OIE名誉顧問、  
OIEのBSE評価委員 OIEゴールドメダルなど受賞

当日の様様



平成 17 年 9 月 9 日  
シンポジウム「獣疫学の新たなる展開」

*Symposium :*

**Novel Aspects of Veterinary Epidemiology**

September 9, 2005

Yayoi Auditorium, The University of Tokyo

---

シンポジウム：獣疫学の新たなる展開

リスクを考慮した B S E サーベイランスシステムの構築

Dr. Katharina Stärk (スイス連邦獣医局)

地理情報システム (GIS) の獣疫学への応用

Prof. Dirk Pfeiffer (英国ロンドン大学)

開催日：2005年9月9日(金) 午後1時～3時半

開催場所：東京大学・弥生講堂 東京大学農学部内

主催：東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻・応動物科学専攻  
獣疫学会

平成 18 年 1 月 27 日

ワークショップ「農学教育・農学研究における学際的アプローチの可能性を探る」

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ  
**AGRI-COCOON**  
産学官民連携型農学生命科学研究インキュベータ機構



トップページ | コース | サイト | 第1回ワークショップ | お問い合わせ

ACT11は終了致しました。ご迷惑ありがとうございました。  
当日の様様 > ACT11 開催レポート

## 21世紀農学コロキウム 第1回 ワークショップ (ACT1)

アグリコクーンの発足式 開催のお知らせ

日 時: 2006年1月27日(金)15時~17時30分(予定)  
場 所: 東京大学弥生キャンパス農学部3号館4階大会議室

【テーマ】 農学教育・農学研究における学際的アプローチの可能性を探る  
～ アグリコクーンへの期待と課題 ～

司会進行 妹尾 啓史 副機構長/応用生命化学専攻

【挨拶】 アグリコクーンとこれからの農学生命科学研究科

會田 勝美 機構長/農学生命科学研究科長

【第1部】 アグリコクーンにおける教育・研究:フォーラムグループの計画

中嶋 康博	機構事務局長/農業・資源経済学専攻
局 博一	食の安全・安心FG/獣医学専攻
五十嵐 泰夫	農学におけるバイオマス利用研究FG/応用生命科学専攻
黒倉 寿	国際農業と文化FG/農学国際専攻
日野 明徳	生物多様性・生態系保全FG/生態システム学専攻

【第2部】 新しい大学院教育への期待:大学院生からの提言

有本 寛	農業・資源経済学専攻・D3
森 暁	応用生命化学専攻・D3
関野 伸史	応用動物科学専攻・M1

【第3部】 総合討論

農学生命科学研究科・農学部の教職員・院生・学部生の皆様のご参加をお待ちしております。  
18時より農学部3号館1階141号室でアグリコクーン開設記念パーティを開きます。  
お気軽にご参加ください。【参加無料】

問い合わせ先:  
産学官民連携室  
TEL 03-5841-8882 (内線28882)  
office@agc.a.u-tokyo.ac.jp  
農学部3号館 1階105A号室 学生サービスセンター隣

産学官民連携室/農学部 3号館1F 学生センター隣  
office@agc.a.u-tokyo.ac.jp TEL 03-5841-8882

©copyright 2006 東京大学大学院農学生命科学研究科 産学官民連携室

平成 18 年 1 月 27 日

ワークショップ「農学教育・農学研究における学際的アプローチの可能性を探る」  
発表「食の安全研究センター設立構想とアグリコクーン」

発表者：局 博一（東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻）

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ  
**AGRI-COCOON**  
産学官民連携型農学生命科学研究インキュベータ機構



トップページ AGTI ACT1 開催レポート お問い合わせ

## 「食の安全研究センター」設立構想とアグリコクーン

局 博一（食の安全・安心FG／獣医学専攻）／発表資料(PDF)／2006年1月27日

### 全般的なリスク管理

最近、「食の安全・安心」が大きな社会問題になっている。具体的には動物由来感染症、食中毒、食品アレルギーなどが挙げられるが、とくに動物由来感染症は、一旦起きるとその影響は甚大である。リスクの科学的評価、そしてリスクの情報提示と情報管理が求められている。家畜・家畜生産物の人へのリスク要因には、生物的要因(病原微生物など)、化学的要因(動物用医薬品、農薬、添加物など)、物理的要因(異物、放射能など)がある。また一次的リスクと二次的リスクがあることは周知のとおりで、全般的なリスク管理が必要である。

最近、食の安全に関する法律が次々と制定されていて、なかでも食品安全基本法の制定は特筆できる。これは、「化学的知見に基づいて食品による健康への悪影響を未然に防止しなければならない」として、試験研究体制の整備も謳われている。

### 食の生産から消費までの全段階をカバーできる

このような状況を鑑みて、東大として「食の安全研究センター」を立ち上げるのはもはや社会的義務ではないかと考える。食の生産から消費までの全段階をカバーできる多数の専門家・分野を擁している当研究科に、このようなセンターを設置することのメリットは大きい。またこのセンターを通じて、さらに専攻横断的で実践的な教育を行うこともできるだろう。WHOなど世界機関とかかわりのある研究者・先生方も多数おられるので、このセンターは「アジアの拠点」になり得る。

概念図は資料(p.9)を参照のこと。研究助成を、政府・民間に訴えていくが、その核として、アグリコクーンを通じて情報の受発信を行う。

食の安全研究センターの研究・教育面での柱は以下のとおり。

- 生産現場から製品までの安全性評価
- 人獣共通感染症の疫学研究
- リスク管理、評価、コミュニケーション

まずは農学部3号館の2階に本部を設置したい。実際のリサーチフィールドは付属農場を考えている。そこで試験研究をすることも可能ではないだろうか。今回の「食の安全ゼミナール」の実習の場としても利用できる。また社会人を対象とした研修を行ってもよいのではないかと。なお現在の獣医学、応用動物科学専攻の研究課題の例は資料(p.12)を参照のこと。

産学官民連携室(農学部 3号館1F 学生センター隣)  
office@agc.a.u-tokyo.ac.jp TEL 03-5841-8882

©copyright 2006 東京大学大学院農学生命科学研究科 産学官民連携室



平成 18 年 1 月 27 日

ワークショップ「農学教育・農学研究における学際的アプローチの可能性を探る」  
発表「食の安全研究センター設立構想とアグリコクーン」

発表者：局 博一（東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻）

発表資料（抜粋）

### 農学生命科学研究科 食の安全研究センター

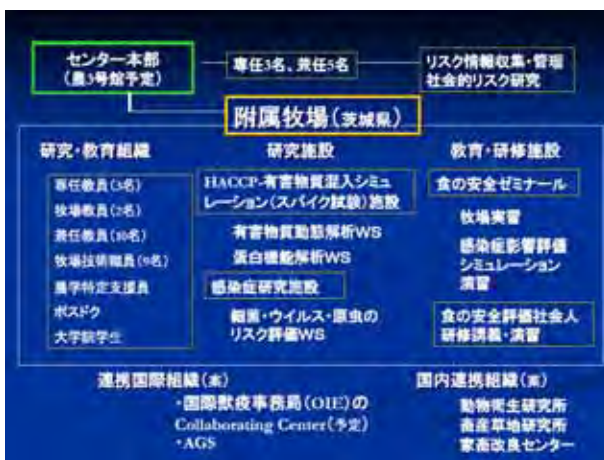
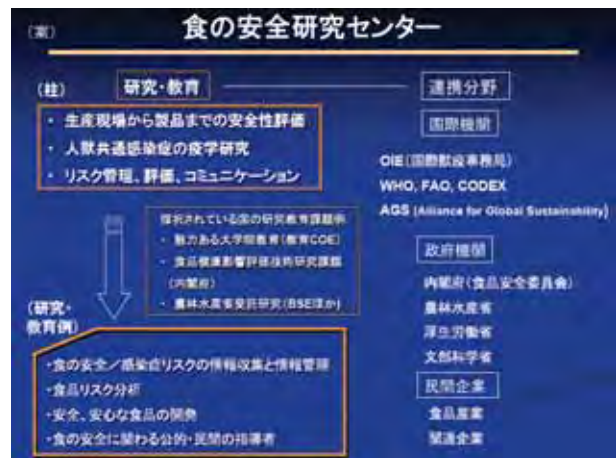
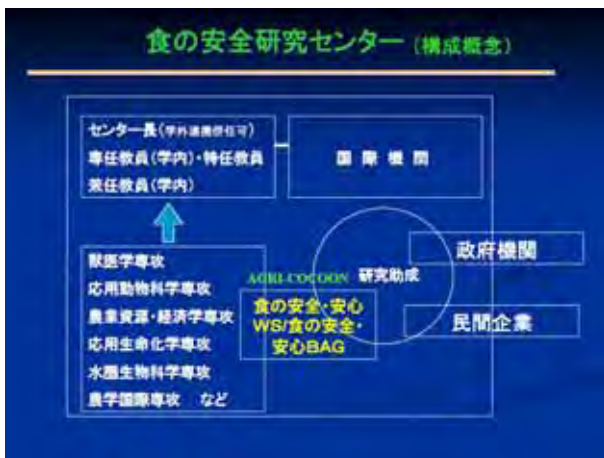
#### 設立の趣旨

- 食の安全確保に向けた国、地方行政の体制が強化された（内閣府食品安全委員会、農林水産省消費・安全局）。
- 消費者の食の安全に対する信頼が大きく揺らいでいる。
- 食品の安全性に関する正しい科学的情報を強く求めるようになった。
- 政府や国民の要求に十分に応えうる研究教育組織が乏しいことは憂慮すべき事象である。
- 本研究科に、「食の安全研究センター」を設置することは、現在および将来の長きにわたって、わが国および世界の食の安全に関する大きな社会的貢献を成しうる。

### 農学生命科学研究科 食の安全研究センター

#### 本研究科に設置する利点

- 食の生産から消費までの全段階をカバーすることができる多数の専門家・分野を擁しており、行政の垣根を越えた横断的な研究、教育ができる。
- 牧場や農場などフィールドを抱えているため、実践的で高度な研究、教育を行うことができる。
- 本研究科は国際機関と連携しやすい環境にあり、WHO、FAO、OIEなどとの連携により食の安全情報のセンター（アジア拠点）を形成することができる。



### 研究課題(獣医学専攻、応用動物科学専攻の例)

- ・ βアミロイド蛋白の消化管吸収経路と伝達機構
- ・ 筋肉組織中の神経組織の安全性評価
- ・ 牛特定危険部位の除去法
- ・ 培養細胞及び遺伝子改変マウスを用いたプリオン分離法
- ・ 正常プリオン蛋白の機能
- ・ 和牛におけるプリオン抵抗性の解析
- ・ 日本のBSEの原因究明、疫学調査
- ・ 各国のBSEステータス評価法の研究
- ・ BSEサーベイランス方法の評価
- ・ 食品汚染微生物と微生物毒素のリスク評価
- ・ かび毒の毒性と代謝
- ・ 食中毒細菌の早期の解析
- ・ ノロウイルス性食中毒のリスク評価
- ・ 食の生活習慣病(糖尿病)
- ・ バイオミルク・ビーフの生産システムの確立

平成 18 年 2 月 13 日～21 日  
 集中講義「食の安全ゼミナール & 」

# AGRI-COCOON

産学官民連携型農学生命科学研究インキュベータ機構

食の安全・安心問題を学際的に講義する新しい大学院プログラムが始まります  
 自然科学、社会科学の様々な分野からの幅広く深い知識を得ることができます

平成 17 年度

## 食の安全ゼミナール I & IV

今年度は集中講義!

※2月13日のみ教室が異なりますのでご注意ください。

開講日 & 教室	時間	講義名	講師
2月13日(月) 1号館8番講義室	10:00～12:00	フードシステムと食品安全への懸念	中嶋 康博 (農学・資源経済学専攻 食料・資源経済学)
	13:00～14:50	食品安全行政の枠組み	同上
	15:10～17:00	費用便益分析の基礎と食の安全に 対する支払意思額の計測方法	同上
2月14日(火) 7号館A棟 104号室	10:30～12:00	産業動物の衛生と食の安全	局 博一 (獣医学専攻 比較病態生理学)
	13:00～15:00	食品衛生と食中毒	熊谷 進 (獣医学専攻 公衆衛生学)
2月15日(水) 7号館A棟 104号室	10:30～12:00	BSEのサイエンス	小野寺 節 (応用動物科学専攻 応用免疫学)
	13:00～15:00	BSEのリスク評価	吉川 泰弘 (獣医学専攻 実験動物学)
2月20日(月) 7号館A棟 104号室	10:30～12:00	食品の二面性—機能性と有害性	清水 誠 (応用生命化学専攻 食糧化学)
	13:00～14:30	生活習慣病の原因としての食品: その不安全性を探る	佐藤 隆一郎 (応用生命化学専攻)
	14:50～16:20	食品と重金属	吉村 悦郎 (応用生命化学専攻 分析化学)
2月21日(火) 7号館A棟 104号室	10:30～12:00	食品のアレルギー誘発性評価	八村 敏志 (応用生命化学専攻 食品生化学)
	13:00～14:30	栄養素摂取量と安全性 —タンパク質・アミノ酸を中心に—	加藤 久典 (応用生命化学専攻 栄養化学)
	14:50～16:20	ニュートリゲノミクスによる 食品の機能性・安全性評価法	阿部 啓子 (応用生命化学専攻 動物機能開発化学)

### ■ 受講対象

上記の授業は修士課程および博士課程の学生を対象にした農学生命科学研究科の共通科目です。科目名は、修士課程は食の安全ゼミナールI、博士課程は食の安全ゼミナールIVとなります。なお、研究科共通科目の単位は、研究科規則の規定により課程修了に必要な単位として加えることができますので、便覧等で条件を確認してください。ただし、本年度は講義日程の関係上、3月修了見込学生の修了単位への算入は難しいので、その旨ご留意ください。なお授業を受けるにあたって特別な準備や知識は必要ありません。

### ■ 評価

出席とレポートにより総合的に評価します。

### ■ 受講登録方法・登録受付日

履修を希望する学生は平成18年1月30日(月)～平成18年2月3日(金)に学生サービスセンター内の大学院係で受講登録を行ってください。

お問い合わせ

<http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/>

産学官民連携室(農学部3号館1階学生サービスセンター横105A号室)

内線 28882

Email: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp

平成 18 年 3 月 2 日、3 日

国際シンポジウム「成熟社会の食の行方 - 日本とフランスの対話 - 」

International Joint Seminar for Commemoration of Extending Academic Exchange Agreement between UT and INA-PG

AGRI-COCOON ACT Workshop Series (ACT2)

東京大学・パリ・グリニオン国立農学院国際交流協定更新記念国際セミナー  
アグリコクーン第2回ワークショップ (ACT2)

安全、健康そして食文化など現代の食をめぐるさまざまな課題をとりあげ  
科学技術の役割や社会のあり方について東京大学と仏国立農学院の研究者が考えます

## 成熟社会の食の行方-日本とフランスの対話-

**日時** 2006 年 3 月 2 日 (木)、3 日 (金)

**会場** 東京大学弥生講堂一条ホール (農学部キャンパス内、南北線東大前駅 3 分)

※駐車場がございませんのでお車でのご来場はご遠慮ください。

※参加無料/日仏同時通訳つき

第 1 日

「食の安全への懸念」

- 12:45~13:00 開会挨拶 曾田 勝美 (東京大学) / カトリーヌ・マリオジュール (パリ・グリニオン国立農学院 (INA-PG))
- 13:00~14:00 食品安全政策とリスクアナリシス  
「BSE のサイエンス」小野寺 節 (東京大学)  
「フランスと EU における食品安全対策: 原則と展開」ペロニーク・ベルマン (国立獣医学校)  
「食品安全委員会とリスク分析 (仮)」梶津 準士 (水資源機構)
- 14:00~14:40 食品衛生対策  
「日本における細菌性食中毒とその制御」熊谷 進 (東京大学)  
「伝統的発酵食品における微生物学的環境とリスク管理: ソフトチーズを事例に」エリック・スピネル (INA-PG)
- 15:10~16:30 私たちの健康を支える  
「栄養素の欠乏と過剰の今日的課題」加藤 久典 (東京大学)  
「栄養摂取基準と食生活起因疾病との関係」ダニエル・トム (INA-PG)  
「食品によるアレルギーの誘発と抑制」八村 敏志 (東京大学)  
「機能性食品科学とニュートリゲノミクス」阿部 啓子 (東京大学)
- 16:30~17:30 伝統的な食から近代的な食へ: 1 日目の議論をまとめて  
「わが国における食のトレンド」中嶋 康博 (東京大学)  
「フランスにおける食の変遷」ジル・バザン (INA-PG)  
「フランスのさかな: 肉食を越えて」カトリーヌ・マリオジュール (INA-PG)

第 2 日

「私たちの食はどこへ向かうのか」

- 消費者・マスコミ・企業・行政・研究者がともに集い  
産・学・官・民それぞれの立場からこれからの食を議論し交流の場を設けます
- 9:00~9:40 食の社会的側面  
「社会学者からみたフランスの消費者と食の姿」クロード・ウィスネーブルジョア (INA-PG)  
「地域振興における食の役割」木南 章 (東京大学)
- 9:40~10:20 食品安全をめぐる危機管理対策  
「フランスの経験」ペロニーク・ベルマン (国立獣医学校)  
「日本の経験」高野瀬 忠明 (雪印乳業社長)
- 10:50~12:50 【パネルディスカッション】私たちが食に求めるもの  
岩田 三代 (日本経済新聞社) / 神田 敏子 (全国消費者団体連絡会) / 河野 一世 (味の素食文化センター)  
生源寺 真一 (東京大学) / 吉川 泰弘 (東京大学)  
ジル・バザン (INA-PG) / ペロニーク・ベルマン (国立獣医学校) / ブノワ・ショヴェル (日仏貿易 (株))
- 12:50~13:00 開会挨拶 生源寺 真一 (東京大学)

AGRI-COCOON

<http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp>

お問い合わせ アグリコクーン 産学官民連携室 TEL. 03-5841-8882 office@agc.a.u-tokyo.ac.jp

平成 18 年 3 月 2 日、3 日

## 国際シンポジウム「成熟社会の食の行方 - 日本とフランスの対話 - 」 開催レポート



[トップページ](#) > [ACT2](#) > ACT2開催レポート

### 日本・フランスで食のシンポジウム開催

【3月2日(木)3日(金)／東京大学農学部 弥生講堂一条ホール】  
アグリコクーン食の安全・安心フォーラムグループ主催の、日仏国際シンポジウムが2日間にわたり開催されました。消費者、マスコミ、企業、行政、研究者が日本、フランスから集まり、開催テーマ「[成熟社会の食の行方 - 日本とフランスの対話 -](#)」についての研究発表、意見交換が行われました。また、2日間の日程中にはコーヒブレイクや小さなパーティが盛り込まれ、飾らない雰囲気の中、来場者の皆さんと日本・フランス発表者との楽しく活発な意見交流の場が生まれました。多くの来場、ありがとうございました。  
※発表要約と発表資料PDFを掲載しています。※PDFダウンロードは教育・研究目的に限り可



#### 第1日 食の安全への懸念

- 開会挨拶
  -  **會田 勝美**(東京大学)
  -  **カトリーヌ・マリオジュルス**  
(バリーグリュオン国立農学院  
(以下INA PG))
- 食品安全政策とリスクアナリシス | 進行: 局 博一(東京大学)
  -  **BSEのサイエンス**  
小野寺節(東京大学)
  -  **フランスとEUにおける食品安全対策:原則と展開** ペロニー  
ク・ベルマン(国立獣医学校)
- 我が国の食品のリスク分析と食品安全委員会の役割  
梅津準士(水資源機構)
- 食品衛生対策 | 進行: 渡部 終五(東京大学)
  -  **日本における細菌性食中毒とその制御**  
熊谷進(東京大学)
  -  **伝統的発酵食品における微生物学的環境とリスク管理:ソフトチーズを事例に**  
エリック・スピネル(INA PG)
- 私たちの健康を支える | 進行: 佐藤 隆一郎(東京大学)
  -  **栄養素の欠乏と過剰の今日的課題**  
加藤久典(東京大学)
  -  **栄養摂取基準と食生活起因疾病との関係**  
ダニエル・トメ(INA PG)
  -  **食品によるアレルギーの誘発と抑制**  
八村敏志(東京大学)
  -  **機能性食品科学とニュートリゲノミクス**  
阿部啓子(東京大学)
- 伝統的な食から近代的な食へ:2日目の議論に向けて | 進行: 生源寺 真一(東京大学)
  -  **わが国における食のトレンド**  
中嶋康博(東京大学)
  -  **フランスにおける食の変遷**  
ジル・バザン(INA PG)
  -  **フランスのさかな:肉食を越えて**  
カトリーヌ・マリオジュルス(INA PG)



## 第2日 私たちの食はどこへ向かうのか

### 1. 食の社会的側面 | 進行: 中嶋 康博(東京大学)



**社会学者からみたフランスの消費者と食の姿**  
 クロード・Wisniewski (INA PG)



**地域振興における食の役割**  
 木南章(東京大学)

### 2. 食品安全をめぐる危機管理対策 | 進行: 中嶋康博(東京大学)



**専門家グループによる食品クライシスマネジメント: 2001年欧州における口蹄疫の経験から**  
 ペロニーク・ベルマン(国立獣医学校)



**「安全・安心」を向上させるために—企業が取り組むリスクマネジメントとリスクコミュニケーション—**  
 高野瀬忠明(雪印乳業)

### 3. パネルディスカッション | 司会: 生源寺 真一

パネリスト紹介: (※発表者除く)



**岩田 三代**(日本経済新聞社生活情報部編集委員)

**ブノワ・ショヴェル**(日仏貿易(株)社長)

**河野 一世**(味の素(財)味の素食の文化センター専務理事)

**吉川 泰弘**(獣医学専攻教授/実験動物学)

**神田 敏子**(全国消費者団体連絡会事務局長)

**西郷正道**(食品安全委員会リスクコミュニケーション官)

#### 【第1部】 食の安全・安心をめざして

西郷正道(食品安全委員会) / 高野瀬忠明(雪印乳業社長) / 神田 敏子(全国消費者団体連絡会) / 吉川 泰弘(東京大学) / ブノワ・ショヴェル(日仏貿易(株)) / ペロニーク・ベルマン(国立獣医学校) / ダニエル・トメ(INA PG) / エリック・スピンレル(INA PG) /

#### 【第2部】 より豊かな食を楽しむには

河野 一世(味の素食の文化センター) / 岩田 三代(日本経済新聞社) / 神田 敏子(全国消費者団体連絡会) / ブノワ・ショヴェル(日仏貿易(株)) / クロード・Wisniewski (INA PG) / カトリーヌ・マリオジュルス(INA PG) / ジル・バザン(INA PG) /



**司会: 生源寺真一**(農業・資源経済学専攻教授 / 食料・資源経済学)

### 4. 閉会挨拶

生源寺真一(東京大学)

たくさんのご来場ありがとうございました。ご意見・感想・ご要望などございましたら産学官民連携室までお寄せ下さい。



平成 18 年 3 月 28 日

国際シンポジウム「食の安全と健全の確保に向けた疫学の展開」

AGRI-COCOON

食の安全・安心フォーラムグループ

21 世紀農学コロキウム第 3 回ワークショップ (ACT 3)

## 食の安全と健全の確保に向けた疫学の展開

*Epizootology toward Ensurance of Food Safety and Wholesomeness*

平成 18 年 3 月 28 日 火

13:00~17:30

東京大学農学部 1 号館 8 番教室 (2 階)

参加無料・事前申し込み不要

### 第 I 部

座長：吉川 泰弘 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

13:00~13:30	国際獣疫事務局(OIE)の活動について	藤田 陽偉 (国際獣疫事務局太平洋地域事務所)
13:30~14:20	我が国の飼育犬に狂犬病が侵入した場合の伝播と 流行拡大の数理モデルによる解析	大日 康史 (国立感染症研究所) 井上 智 (国立感染症研究所)
14:20~15:10	口蹄疫の疫学分析とリスク評価	筒井 俊之 (動物衛生研究所)

15:10~15:30 休憩

### 第 II 部

座長：小野寺 節 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

15:30~16:30	フランスにおけるフードチェーンの BSE 汚染防止政策	Sylvain Lehmann (Institut de Genetique Humaine du CNRS)
16:30~17:20	日本における BSE 検査の 食品衛生への影響の評価	春日 文子 (日本医薬品食品衛生研究所) 筒井 俊之 (動物衛生研究所)
17:20~17:30	総括	

お問い合わせ

産学官民連携室

東京大学大学院農学生命科学研究科 3 号館 1 階 105A TEL. 03-5841-8882

office@agc.a.u-tokyo.ac.jp

http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/

平成 18 年 3 月 28 日

## 国際シンポジウム「食の安全と健全の確保に向けた疫学の展開」 開催レポート



[アグリコクーン](#) > [ACT3](#) > ACT3開催レポート

### 疫学から食の安全と健康を考える国際シンポジウム開催

【3月28日(火)／東京大学農学部 1号館8番教室】

アグリコクーン食の安全・安心フォーラムグループ主催、日仏国際シンポジウムが開催されました。  
**食の安全と健全の確保に向けた疫学の展開**をテーマに、日仏のBSE対策、口蹄疫・狂犬病予測モデルと対策などの研究発表が行われました。報道等で注目されている話題でもあり、発表者への質疑応答も活発に行われました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。(ご来場約80名)  
※タイトルをクリックすると各講演の要旨(英文)をご覧ください。



座長: 吉川泰弘 (東京大学大学院農学生命科学研究科)



#### [国際獣疫事務局\(OIE\)の活動について](#)

藤田陽偉 (国際獣疫事務局太平洋地域事務所)



#### [我が国の飼育犬に狂犬病が侵入した場合の伝播と流行拡大の数理モデルによる解析](#)

大日康史(国立感染症研究所)・井上智(国立感染症研究所)



#### [口蹄疫の疫学分析とリスク評価](#)

筒井俊之(動物衛生研究所)



座長: 小野寺 節 (東京大学大学院農学生命科学研究科)



#### [フランスにおけるフードチェーンのBSE汚染防止政策](#)

Sylvain Lehmann (Institut de Genetique Humaine du CNRS)



#### [日本におけるBSE検査の食品衛生への影響の評価](#)

春日文子(国立医薬品食品衛生研究所)・筒井俊之(動物衛生研究所)

産学官民連携室／農学部3号館1F学生サービスセンター隣／TEL 03-5841-8882／FAX 03-5841-8883  
office@agc.a.u-tokyo.ac.jp

平成 18 年 4 月 20 日～  
食の安全ゼミナール  
ガイダンス資料

[アグリコウーン](#) > [食の安全ゼミナール](#) > ガイダンス配布資料

[PDF版はこちら](#)

## 18年度 食の安全ゼミナール ガイダンス資料

(2006/04/13)

### 【ゼミナールの狙い】

- 自分の専門以外の知識を獲得する
- 多角的なモノの見方を学ぶ
- 所属する専攻以外の院生と交流する
- 大学を越えたネットワークを形成する

授業の連絡等はメーリングリストで行うので、受講生は全員、通常利用しているEメールアドレスを授業開始時に申告すること

### ■食の安全ゼミナールⅠ(修士課程) & Ⅳ(博士課程)【講義】

【講義室】 農学部1号館2階 8番講義室

【曜日・時間】 木曜日18時～19時30分

【講義の進め方】 原則として、講義はパワーポイントを利用して行うが、講義資料としてパワーポイントのスライドを印刷して配ることはしない。パワーポイントはできるだけ各回の講義が始まるまでにアグリコウーンのホームページに掲載する。各自、事前に目を通し、必要に応じてプリントアウトすること。ただしパワーポイントをホームページに掲載しない講義もあるので注意すること。

【評価】 出席回数とレポート内容を加味して評価する。出席点を重視するが、レポートを提出しないと未受験となる。レポート課題は「わが国の食品安全問題を概観した上で、食の安全と安心を向上するため、今後どのような技術と制度を重点的に開発・改善していくべきかについて、講義から得られた知見をベースに発展的に論ぜよ。」字数は1500字以上。提出はメールで産学官民連携室まで。提出期限は9月25日(予定)。優秀なレポートはホームページに掲載する。

### ■食の安全ゼミナールⅡ(修士課程) & Ⅴ(博士課程)【演習】

【受講条件】 食の安全ゼミナールⅠもしくはⅣを前年度に受講済みもしくは今年度履修登録していることが必要。

【演習の進め方】 次の5課題を通年で実施する(便覧には冬学期授業となっているが本年度は通年で行う)。場所や時間は適宜連絡する。

#### ①食品安全最前線ゼミ (6回)

外部講師を招き、最新の情報を講義してもらい、受講生とともに討議する。

※ 5/24, 6/28, 9/13, 10/25, 11/22, 12/6に実施するように調整中。

原則として水曜日18時～20時。

ただし現在、講師を選定中のため日程変更の可能性(大いに)あり。

#### ②牧場実習 (夏休み中に1泊2日:7月27(木)、28日(金))

茨城県岩間町の附属牧場での研修

(<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/bokujo/>)

乳牛の飼養管理、ミルクの生産から製品までの一貫した流れを講義と実地見学

#### ③疫学シミュレーション (1回:日程は後日発表)

コンピュータ演習

#### ④ゼミ生合同研究発表 (3月に実施予定:人数に応じて回数を設定)

食の安全問題をテーマにしたゼミ生による発表会を開く。各専門分野の研究動向の概要や自身の研究内容の報告でもよい。

#### ⑤ワークショップ開催の企画・運営 (希望者のみ、随時)

食の安全・安心フォーラムグループとしてのワークショップの企画、運営に参加する。(昨年度の開催事例はホームページで確認可能)



## ■食の安全ゼミナールⅢ(修士課程) & Ⅵ(博士課程)【実習】

【受講条件】 食の安全ゼミナールⅡもしくはⅤを履修登録していることが必要。

【実習の進め方】 夏休みに企業や研究機関等で研修を行う。研修期間は1週間程度が目安だが、研修先と相談の上決める。6月初め頃から研修先の選定、交渉を開始。できるだけ自分の専門分野と違う研修場所、研修内容とする。

【評価】 研修先からの評価レポートによる

【研修先】 BAG(アグリコクーンビジネス・アラムニ・アドバイザーグループ)の企業や研究機関

○ BAGの候補例 (現在交渉中)

(独)「畜産草地研究所」(つくば市)／(独)「動物衛生研究所」(つくば市)／(独)「食品総合研究所」(つくば市)／(独)家畜改良センター(福島県)／(独)農林水産消費技術センター(さいたま市)／食品安全委員会(港区)／農林水産省(千代田区)／日本生活協同組合連合会(渋谷区)／(株)イオン(千葉市)、他に多くの食品企業を予定

食の安全ゼミナールの演習の登録については、大学院係での履修登録だけでなく、産学官民連携室での登録も必要。締切は4月21日(金)。直接出向か、電話かメールで、名前、学生証番号、専攻、研究室、学年、Eメールアドレス(以上、必須)、携帯電話(任意)を知らせること。登録できたら確認のメールを送信するので、もし数日しても届かない場合は直接連携室へ確認すること。なお実習については、演習履修生に対して後日改めて募集するので、現時点で登録しなくてよい(大学院係での登録も不要)。

上記の授業は修士課程および博士課程の学生を対象にした農学生命科学研究科の共通科目。研究科共通科目の単位は、研究科規則の規定により課程修了に必要な単位として加えることができるので、便覧等で条件を確認すること。

[←トップページ](#)

産学官民連携室／農学部3号館1F学生サービスセンター隣／TEL 03-5841-8882／FAX 03-5841-8883  
office@agc.a.u-tokyo.ac.jp

平成18年4月20日～  
食の安全ゼミナール

[アグリコラーン](#) > [食の安全・安心F&B](#) > 平成18年度食の安全ゼミナール案内 [\(PDF版\)](#)

## 平成18年度 食の安全ゼミナール

食の安全・安心問題を学際的に学ぶための大学院プログラム。自然科学と社会科学、様々な分野の幅広く深い知識を得ることができます。

[PDF版はこちら](#) [ガイダンス資料\(4月13日開催【学内アクセス専用】\)](#)

### 講義 食の安全ゼミナールⅠ(修士課程)&Ⅳ(博士課程)

農畜水産物、食品、化学物質、新規技術に由来する様々な食のリスクについてその原因と対策について講義する。分子生物学の最新の分析から社会システム的な制度の考察まで、農学分野の自然科学、社会科学を横断して学際的に現代の食品安全問題について広く学ぶ。

●開講曜日と時間: 木曜日 18:00～19:30 場所:1号館8階講義室

[【学内アクセス専用】](#)講義タイトルをクリックすると講義資料(PDF)がダウンロードできます

開講日	講義名	担当教員
4月20日	<a href="#">フードシステムと食品安全への懸念</a>	中嶋 康博 (農業・資源経済学専攻 食料・資源経済学)
4月27日	<a href="#">食品衛生と食中毒</a>	藤谷 道 (獣医学専攻 公衆衛生学)
5月11日	<a href="#">水産食品の安全性について</a>	灌前 結五 (水圏生物学専攻 水圏生物工学)
5月18日	<a href="#">産畜動物の衛生と食の安全</a>	局 博一 (獣医学専攻 比較病態生理学)
5月25日	<a href="#">BSFのサイエンス</a>	小野寺 勲 (応用動物科学専攻 応用免疫学)
6月1日	<a href="#">BSFのリスク評価</a>	吉川 泰弘 (獣医学専攻 実験動物学)
6月8日	食品の二面性—機能性と有害性	清水 誠 (応用生命化学専攻 食糧化学)
6月15日	栄養素摂取量と安全性—タンパク質・アミノ酸を中心に—	加藤 久典 (応用生命化学専攻 栄養化学)
6月22日	食品のアレルギー誘発性評価	八村 敏志 (応用生命化学専攻 食品生化学)
6月29日	ニュートリゲノミクスによる食品の機能性・安全性評価法	阿部 哲子 (応用生命化学専攻 生物機能開発化学)
7月6日	生活習慣病の原因としての食品:その不安定性を探る	佐藤 隆一郎 (応用生命化学専攻 食品生化学)
7月13日	食品と重金属	吉村 悦郎 (応用生命化学専攻 分析化学)
9月7日	食の安全と植物区科学	韓渡 成任 (生産・環境生物学専攻 植物病理学)
9月14日	食の信頼を再構築する技術とその評価	中嶋 康博 (農業・資源経済学専攻 食料・資源経済学)

### 演習 食の安全ゼミナールⅡ(修士課程)&Ⅴ(博士課程)

一年を通して次の事項を演習形式で進めます。①外部講師招聘・討議、②牧場研修、③ワークショップ企画・運営体験、④ゼミ生研究発表 ⑤開講日・時間・場所は受講者と相談の上決定。本年度は通常年同様実施します。

### 実習 食の安全ゼミナールⅢ(修士課程)&Ⅵ(博士課程)

企業や研究機関でのインターンシップ ※夏期休暇中に実施

#### ■ 受講対象

上記の授業は修士課程および博士課程の学生を対象とした農学生命科学研究科の共通科目です。研究科共通科目の単位は、研究科規則の規定により課程終了に必要な単位として加えることができますので、後習考で条件を確認してください。授業を受けるにあたって特別な準備や知識は必要ありません。なお食の安全ゼミナールⅡ(Ⅴ)を受講するには食の安全ゼミナールⅠ(Ⅳ)を、食の安全ゼミナールⅢ(Ⅵ)を受講するには食の安全ゼミナールⅡ(Ⅴ)を受講していることが条件となります。

#### ■ 評価

出席とレポートにより総合的に評価します。

[17年度の食の安全ゼミナール優秀レポートはこちら→](#)

#### ■ 受講登録方法・登録受付日

履修を希望する学生は 平成18年 4月17日(月)～4月21日(金)に学生サービスセンター内の大学院係で受講登録を行ってください。

#### ■ 戻る

産学官連携推進/農学部3号館1F学生サービスセンター係/TEL 02-5841-8992/FAX 02-5841-8993  
office@acc.a.u-tokyo.ac.jp

## 平成 18 年度 食の安全ゼミナール 食品安全最前線ゼミ

[アグリコラーン](#) > [食の安全・安心フォーラムグループ](#) > 食の安全ゼミナールⅡ & Ⅴ 演習スケジュール

### 食の安全ゼミナールⅡ & Ⅴ 食品安全最前線ゼミ

食の安全ゼミナールⅡもしくはⅤの受講生はこの演習に出席してください。また食の安全ゼミナールⅠもしくはⅣの受講生の中で希望者はこの演習に参加できます。

ただしゼミとしてディスカッションのできる環境を維持するために残念ながら人数制限をします。追加参加は**先着10名**まで。それぞれのゼミの受付開始日以降、農学部3号館1階学生サービスセンター横にある産学官民連携室に直接 来室して申込用紙に自分で名前(＋学生証番号＋専攻名＋メールアドレス)を記入してください。



食品安全最前線ゼミ(第1回)5月24日の模様

6月28日の第2回ゼミは**6月15日から受付(先着順)**を開始します。産学官民連携室まで。  
対象:食の安全ゼミナールⅠもしくはⅣの受講生の中で希望者

#### ●食の安全ゼミナールⅡ & Ⅴ / 食品安全最前線ゼミ(第1回)

日時: **5月24日(水)午後6時～8時**(＋簡単な懇親会を予定)  
場所: 農学部7号館A棟104・105号室  
タイトル: **わが国の食品リスク分析と安全行政:食品安全委員会設立の前と後**  
講師: 日和佐信子氏(雪印乳業(株)社外取締役) [講演資料PDF](#)  
<BSE報告書> [要約PDF](#) | [本文PDF](#)  
佐竹健次氏(内閣府食品安全委員会総務課課長補佐)  
[講演資料PDF](#)

#### ●食の安全ゼミナールⅡ & Ⅴ / 食品安全最前線ゼミ(第2回)

日時: **6月28日(水)午後6時～8時**(＋簡単な懇親会を予定)  
場所: 農学部7号館A棟104・105号室  
タイトル: **BSEと牛肉輸入再開問題:日米交渉の経緯と科学の役割**  
講師: 釘田博文氏(農林水産省消費・安全局動物衛生課長)

[←トップページ](#)

産学官民連携室 / 農学部3号館1F学生サービスセンター隣 / TEL 03-5841-8882 / FAX 03-5841-8883  
office@aec.a.u-tokyo.ac.jp

アグリコクーン 産学官民連携室

---

東京大学大学院 農学生命科学研究科

〒113 - 8657 東京都文京区弥生 1 - 1 - 1 農学部 3 号館 1 階 105A

電話 : 03 - 5841 - 8882      FAX : 03 - 5841 - 8883      E-mail : office@agc.a.u-tokyo.ac.jp

<http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp>